

第 1 回 大和高田市教育環境あり方検討委員会 議事概要

開催日時	令和 6 年 11 月 5 日（火）14 時 00 分～15 時 35 分
開催場所	大和高田市役所 3 階庁議室
出席者	委員 11 名（学識経験者、自治会代表、PTA 代表、校長会代表、園長会代表） 事務局 7 名（教育長、教育委員会事務局教育部職員）
欠席者	委員 1 名
事業者	株式会社パスコ
案件	1. 開会の辞 2. 委嘱状の交付 3. 委員の紹介 4. 大和高田市立小中学校（園）のこれからの教育環境のあり方についての検討事項 5. 委員長・副委員長の互選 6. 議事 （1）大和高田市の現状について （2）大和高田市の教育方針について （3）アンケート調査（案）について （4）今後のスケジュールについて 7. 閉会

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言の内容
事 務 局	1. 開会 ・ 定刻より前ではあるが、全員おそろいなので、ただいまから第1回大和高田市教育環境あり方検討委員会を開会する。 ・ 委員の皆さまにはお忙しい中ご出席をいただきお礼を申し上げる。 ・ また、このたびは大和高田市教育環境あり方検討委員をお引き受けいただき重ねてお礼を申し上げる。
事 務 局	2. 委嘱状の交付 ・ 机上に委嘱状を置かせていただいている。本来なら直接お渡しするところであるが、ご了承願いたい。 ・ 開会にあたり、大和高田市教育委員会教育長、梶木義敏よりごあいさつを申し上げます。
教 育 長	・ 本日は第1回の教育環境あり方検討委員会を開催したところ、公私とも大変お忙しいにもかかわらず、お集まりいただきお礼を申し上げます。 ・ また、このたびの委員会の発足にあたり、お忙しい中、委員を引き受けていただき、重ねてお礼を申し上げます。 ・ 本市には8つの小学校と3つの中学校がある。それ以外にも高等学校、幼稚園、こども園、保育所があり、子どもたちの教育を担ってきた。 ・ しかし近年、人口減少、少子化の影響を受け、各学校等の子どもたちの人数が減少している状況で、今まで実施していた様々な教育活動をこれまでどおり行えるのか、危惧しているところである。 ・ そこで本市では、よりよい教育環境を創出するために、令和6年度と令和7年度の2年間で学校施設の再配置について基本方針・基本計画を策定したいと考えている。 ・ 今後は、本委員会と庁内の検討委員会を交互に開催し、教育環境の改善、新しい教育環境を創りだすために進むべき方向を見定めてまいりたいと考えているので、忌憚のないご意見を賜り、少しでも本市の教育が良い方向と向かうよう、お力添えをいただけるとありがたい。 ・ 本日の会議が、大和高田市の学校教育あるいは子どもたちにとって意義のあるものになるようお願い申し上げて、開会のあいさつとさせていただきます。これからどうぞよろしくお願いする。
事 務 局	3. 委員の紹介 ・ 委員紹介
事 務 局	4. 大和高田市立小中学校（園）のこれからの教育環境のあり方についての検討事項 ・ 本日はお配りしている次第の順に進めさせていただく。 ・ この会議は議事録作成のため録音しているのでご了承願いたい。

事務局	・資料確認。 ・本検討委員会は大和高田市教育環境あり方検討委員会設置要綱第6条第2項により、過半数の委員の出席をいただいていることから、本検討委員会は成立することをご報告する。 ・次第4、大和高田市立小中学校（園）のこれからの教育環境のあり方についての検討事項について、説明をする。 ・資料説明
事務局	5. 委員長・副委員長の互選 ・本検討委員会は、設置要綱第5条第2項により、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員の中から委員長が指名すると定められている。 ・どのように選出すればよいか。
委員	・事務局に一任する。
事務局	・事務局一任の声をいただいたので、事務局からの提案として島委員を委員長に推薦したいが、ご意見、ご異議はないか。
委員全員	・異議なし。
事務局	・それでは委員長を島委員にお願いします。 ・副委員長の選出について委員長より副委員長をご指名いただきたい。
委員長	・磯川先生に副委員長をお願いしたい。
事務局	・島委員長からご指名があったので、磯川委員に副委員長をお願いします。 ・設置要綱第6条では委員長が議長になると定めているので、島委員長をお願いします。 ・島委員長よりごあいさつをお願いします。
委員長	・ご指名をいただいたが、力不足なので、皆さんのお力添えをいただきながら務めさせてもらいたい。 ・私自身、最初に赴任したのが片塩小学校で、その後が浮孔小学校だったので、懐かしくもある。どうぞよろしくお願いします。
事務局	・本日の会議の次第6、議事の（1）から（4）について、進行を委員長をお願いします。
委員長	6. 議事 ・議事に入らせていただく。まず（1）大和高田市の現状について、資料4をもとに事務局より説明をお願いします。
事務局	（議題1）大和高田市の現状について ・資料説明
委員長	・ご意見、ご質問があればお願いします。
副委員長	・この検討委員会は、幼稚園など就学前施設も対象で、人数的にかなり少ないのが現状だと思うが、本日の資料には記載がない。 ・幼稚園の学級数や人数は教えてもらえるのか。

事 務 局	・幼稚園について、詳細は次回資料でお示しする。 ・現状は、公立幼稚園は6園あり、各幼稚園で3歳から5歳児までそれぞれ1クラスとなっている。 ・国は幼稚園1クラスあたりの園児数30名を標準として定めているが、本市の現状をみると10名前後であり、多いところで15名、少ないところでは10名を下回る園もある。 ・幼稚園については、保育所、こども園と合わせた検討も必要なことから、今後、市長部局、保育・幼稚園部局とも連携しながら検討していきたいと考えている。
委 員 長	・ほかに質問等はないか。あれば後からでもいいのでお願いします。 ・次に、教育環境のあり方に関する考え方について説明をお願いします。
事 務 局	(議題2) 大和高田市の教育方針について ・資料説明
委 員 長	・これから進めていく方針というか、事務局のお考えをお示しいただいた。これについてご質問、ご意見はないか。 ・適正規模・適正配置というのは、単学級ではなくて複数学級、各学年で複数学級を目指すということか。
事 務 局	・各学年で複数の学級を適正規模と考えている。
委 員 長	・複数の教員配置とはどういう状況をさすのか。
事 務 局	・各学年に複数学級を確保することで、高学年の教科担任制の導入も可能と考えている。 ・また、それぞれ担任を持ってもらうという従来の形も確保できると考えている。
委 員	・幼稚園の教諭として勤めて30年近くになるが、勤め始めた頃は35人ほどの学級だったが、今は10名を切っている。 ・うちの園でも3歳児9名、4歳児9名、5歳児11名で、全園児を合わせても29名という現状である。来年度の入園は4名と非常に厳しい状況にある。 ・市内の6園はそれぞれに工夫を凝らして教育活動を進めているが、そういう現状なので、大和高田市の教育委員会をはじめ、どうしていけばよいか考えてもらいたい。 ・子どもの出生率が年々低下しているので、市を挙げて子どもが増えるような状況にできないか。 ・また、男女共同参画でお母さんたちが社会へ出ていくことが大きなところになるが、子どもを預けて働きたいが0歳から2歳児を預けるところがないという切実な声を耳にしている。

委 員	・また、子どもを預けて働きたいが、上の子を保育所に入れておかないと下の子が預けられない、だから幼稚園ではなく保育所を選択する、ということも耳にした。 ・0から2歳児を預けるところがなく、保育所で一時預かりをしているといっても、実際問題、保育士がいらないから保育所も断るしかない。 ・「皆保育」が全国的に言われているが、預かり手がなく、預ける施設がないため、赤ちゃんを連れて出かけられないということが若いお母さんの間で問題になっており、どうにかこれを解決してほしいが、誰に言えばいいのかわからないという声も聞いている。 ・幼稚園を残したいという思いがある一方で、どうすれば0歳から2歳児を預かってもらえるか、0歳から2歳児の問題さえクリアできれば、上の子を幼稚園に預けるという選択肢もでてくると思う。 ・子どもを預かるには人もお金も必要だが、市内で0から2歳児を預かる施設は、民間も含めてまだまだ数が少なく、預けられないお母さんたちがたくさんいるのが現状である。 ・幼稚園の空き部屋を活用した託児や、保育所に保育士がたくさん来てくれるような取り組みを、自分たちの職場も含めて考えていかなければ、市民が大和高田市から出ていってしまうという現状が起こっているのかと感じている。
事 務 局	・現状、幼稚園での0歳から2歳児の預かりが課題としてある。民間の園やこども園・保育園では0歳から2歳児の預かりもあるが、緊急時や事前の申し込みがないと預かってもらえないといった事情もある。 ・市内にはこども園が2園あるが、こども園が増えれば0歳から2歳児の受け入れも増える。 ・市長部局とこども園・幼稚園のあり方について検討していく中で、ご指摘いただいた課題も考えていく必要があると考えている。
委 員 長	・この委員会で考えていくことの1つであるということか。
事 務 局	・ご意見としていただければ、市長部局との幼稚園・保育所のあり方検討の中で意見をお伝えさせていただく。
委 員	・小学校では教員が不足しているのが現状だが、複数の教員配置はできるのか。今後、教員を増やすことができるのか。
事 務 局	・現状は1学年2クラスの小学校が多い状況だが、子どもの数の減少に伴ってクラス数も減ってくるため、将来的には再配置や統廃合をしながら現在のクラス数を維持していきたい。 ・教員の確保にも努めたいが、今よりもクラス数が少なくなることを想定した配置になると考えている。
事 務 局	・もともと中学校の美術教師をしており、28年前に高田西中学校に赴任した頃は各学年6クラスあったが、今は3クラスになっている。

事務局	・ 6 クラスあれば全学年で週 18 時間授業ができるが、3 クラスになると 9 時間になる。ゆくゆくは高田中学校と高田西中学校で美術教師は 1 名といった配置になる可能性もある。 ・ 複数の教員確保ができなければ、例えば国語の先生が家庭科の免許を持って家庭科も教えるなど、各教科に 1 名ずつ先生がいない時代が来るかもしれない。 ・ クラス数が減るのに合わせて学校の先生も減ってくると、臨時的に専門ではない教科を勉強して教えてもらうといった状況にもつながっていくのではないかな。 ・ 複数学級があって、クラス替えをしたり、たくさん子どもたちと交流したり、先生もたくさんいる、そういう規模の学校にしなければいけないと考えている。 ・ また、それとは別に、資料 5 の 7 ページにあるように、少人数学習や地域とともに存在する施設づくりという視点も、条件が合うところから考えていかなければならない。 ・ 人数は減ってきて子どもたちに合った多様な教育という観点から、この教科は少人数に分けて勉強するということもありうる。そうするとクラス数よりも余分に教室が必要になるが、単純に合併して今の校舎で教室が足りるのかということも考えなければならぬ。 ・ いろんな問題が起こってくると思うので、皆さんでご検討いただきたい。
委員長	・ ほかに意見がなければ、次に、アンケート調査（案）について説明をお願いする。
事務局	（議題 3）アンケート調査（案）について ・ 資料説明
委員長	・ 調査票については、持ち帰ってから意見をいただきたいとの説明であったが、現時点でご意見等はないか。
委員	・ 小学生のアンケートの対象が 5・6 年生となっているが、そうした理由はあるのか。
事務局	・ 学校生活や通学に関して意見をいただくため、最高学年であり、小学校に 6 年間通っていることから、6 年生を対象に含めたいと考え、また、サンプル数の関係で、5・6 年生の 2 学年を対象とした。
委員	・ 対象児童としては、高学年の方がしっかり書いてくれる気もするので問題ないが、保護者については 5・6 年生の保護者に限定する必要はないのではないかな。 ・ 小学校 1 年生と 6 年生の親では意見はまったく違うと思う。子どもが高学年になるほど働きに出る人も増えるし、1 年生だと通学に安心できないという保護者も多い。

委 員	・その部分を幼稚園の保護者で補完しようとしているようだが、個人的には分けて考えて、保護者については6年生にする必要はないと思っている。
委 員 長	・全保護者ということか。
委 員	・全保護者であればよいが、集計等が大変なのであれば、低学年と中学年と高学年に分けてはどうか。
事 務 局	・検討させていただく。 ・全体の意見を把握するためにも、低学年や入学したばかりの子どもの保護者も含めて意見をもらえるよう考えたい。
委 員 長	・児童については、1・2年生は答えるのが難しいと思うので、5・6年生が適切ではないか。
委 員	・難しいが、児童と保護者が一緒に考えるよい機会にもなる。 ・ただ、保護者としては、家で子どもと相談しながらアンケートに答える時間はないかもしれない。
委 員 長	・するとしたら、2・4・6年生、1・3・5年生ということか。
委 員	・それも1つの案。
委 員	・集計はどのような形でされるのか。 ・単純集計だけだとわかりにくいので、属性別に意見を整理し、委員会で検討できる材料になるように結果を示してもらえるとありがたい。
副 委 員 長	・個人的には、小学校区別に分析してほしい。
事 務 局	・校区別などの集計は可能である。
委 員 長	・児童・生徒は学校で直接アンケートに答えて、市民や保護者についてはウェブで回答するのか。
事 務 局	・市民には用紙を郵送する。回答は郵送でもウェブでもよい。
委 員	・児童・生徒のアンケートは学校で答えさせるのか。 ・保護者と児童は別に回答するのか。調査票は保護者に送るのか。
事 務 局	・学校にアンケート調査票をお持ちする。 ・児童・生徒が書く欄と、保護者が書く欄を分けている。
委 員 長	・その場合は、子どもと保護者が同じ学年でなければいけない。
事 務 局	・持ち帰って回答してもらい、学校に持ってきてもらう想定であったが、意見を踏まえ、再度検討する。
委 員	・小学校5・6年生であれば自分で答えられるが、4番の学級規模のように1・2年生では答えられない難しい内容もある。 ・子どもがプリントを持ち帰ったときに、6年生の子と1年生の子がいる保護者の場合、混ざってしまうこともあるので、学年で想定するのは難しい部分もある。 ・分けて集めたいのであれば、そこに特化して回答してもらうようにする必要があるのではないか。

委 員	・ 学校で配布する場合、学校の教員が全員の分が出ているかを確認してから、こちらに提出するのか。 ・ アンケートは絶対に出してもらいたいということか。それともアンケートなので出さなくても大丈夫なのか。
事 務 局	・ できるだけ回答をいただきたいが、強制するものではない。
委 員	・ 学校の配布物を親に渡さない子どもも多いので、親の手元に渡るかどうかが怪しい。
委 員	・ 保護者と生徒の両方をお願いするのであれば、高学年にこだわらなくても低学年も含めて学年を網羅する形も可能と思う。
委 員	・ 保護者に確実に渡す工夫のひとつとして、懇談や参観での配布や、家庭訪問時に届けることも考えられる。 ・ そうすれば確実に保護者に渡る。
事 務 局	・ 対象をどうするかについては考えさせていただきたい。 ・ 配布については子どもを通じて持ち帰ってもらうことを基本にしているが、ご意見があったように、確実に保護者に届くよう、マチコミメールなども使いながら工夫していきたい。
委 員	・ 回収率がどの程度あれば意見として取り入れるのか。
パ ス コ	・ 市民アンケートの回収率について、最近の自治体のアンケートでは概ね3割程度が多いが、できれば4割回収したいところではある。サンプル数が少ない場合は、想定される誤差が大きくなるため、その点を考慮したうえで整理していく。 ・ 利用者アンケートは、統計的に処理するというよりは、当事者の意見としてできるだけ多く集めて、直接お聞きした生の声として、重要な情報として扱わせていただく。
委 員 長	・ 学年や配布回収方法については、委員の意見を踏まえ、事務局で考えてもらい、適切な形ですすめていただきたい。 ・ アンケートに関してご意見、ご質問はないか。 ・ お持ち帰りいただき、ご意見等あれば事務局にお伝え願いたい。 ・ 続いて議題4、今後のスケジュールについて説明をお願いします。
事 務 局	（議題4）今後のスケジュールについて ・ 資料説明
委 員 長	・ 全体を通してご質問、ご意見があればお願いします。
委 員	・ この検討委員会の議論としては、学校を統合するという流れなのか。
事 務 局	・ 将来的に子どもの人数の減少に伴ってクラスが減ってきたときに、今後、求められる新たな教育を実現するための環境として、どのクラス規模が最適なのか、この委員会でご意見をいただきたい。 ・ 例えば2クラスと決まった場合、いずれ1クラスになる時期が来たときに、2クラスを維持するためには統合が必要という方向性になってくると考えている。

事 務 局	・統合以外にも、1クラスの小規模な学校を並行してつくるといった意見があれば、それも検討することができる。 ・統合を決定事項として進めているわけではない。
委 員	・子育ても終わり、孫も高校生なので、学校のことや子どものことはよくわからない。 ・現状をお聞きして、住民代表としてどのようにかかわっていくか考えていきたい。
事 務 局	・教育委員会では、令和4年度に「教育環境のあり方」について検討を行っている。人口の推移、学級数の推移、各学校の子どもたちが徒歩で通える範囲などを加味し、今後の検討の基礎資料として活用していく。 ・本日は第一回なので、各委員それぞれの立場から学校教育についてどう思われているかを聞かせていただくとともに、アンケートやスケジュールを事務局から提示してご意見を頂戴したが、今後は第2回、第3回で資料をお示しし、進めていきたいと考えている。
委 員 長	・第二回の検討内容である、学校規模が教育環境に与える影響についても、資料も出していただきたい。
委 員	・今回は、アンケートも含め子どもや保護者向けに提案している内容が多い。地域の方の考えについて、検討できる機会はあるのか。 ・私は菅原小学校で、周りには菅原小学校の卒業者が多い。自分が世話になり子どもや孫も世話になったからボランティアに参加してくれる人もいる。もし統合して菅原小学校がなくなったらボランティアにも参加しないと思う。そうなったときに、地域で守っている学校というものについて、住民の意識がどう変わっていくのか気になる。 ・今回の検討ではその点は考慮せずに進んでいくのか。あくまでも子どもたち中心という進め方になるのか。
事 務 局	・子どもたちの将来の教育環境ということでは、地域の方の活動や協力など地域とのつながりは不可欠であり、分けて考えることはできないので、引き続き地域の方々にも子どもたちの教育環境に関わってもらえる学校の方向性を検討していく必要があると考えている。 ・アンケートの設問に関して、地域の方々に聞いたほうがよい内容があれば、来週の月曜日までにご意見を頂ければ組み込むことも可能だと思うので、具体的な設問案をお示しいただけるとありがたい。
委 員	・積極的に関わってくれている方々にアンケートが渡ればおもしろい意見が聞けるのではないかな。 ・地域でボランティアをしている人など、そういう人たちは学校に対する意識が違う。逆にまったく興味のない人もいる。

委員長	・市民とは別に、利用者として、地域でボランティアなどにかかっている人にアンケートをするのも1つであるが、各学校でそういう人を特定できるのか。
委員	・ボランティアは学校で管理していて、登録していると思う。
事務局	・地域の方の意見について、今回のアンケートの対象として入れるかどうか検討する。
委員	・市民と利用者は被るとはしないのか。
事務局	・2,000人は無作為抽出なので重なる可能性はある。
委員	・利用者を除いてから抽出はできないのか。
事務局	・調整したい。
副委員長	・利用者と市民とは別ということだが、利用者の意味がわかりにくい。 ・例えば私は、浮孔校区の総代会会長で、人権推進教育協議会の会長を兼ねている。人権推進教育協議会は8校区すべて学校が事務局であるので、私は利用者になるという解釈になるのか。
事務局	・今回のアンケートでは主に現役の児童・生徒と保護者、教員を利用者としているが、学校に地域としてかかわっておられる方もいるので、そういった方のご意見を聴く方法は検討したい。
委員	・現役の子どもはいなくて、卒業して手が離れて3、40年になるので、本日の資料を持ち帰って、これから勉強しようと思う。
委員	・浮孔西小学校に通う4年生の孫から、3年生の時は1クラスだったが4年生になって2クラスになったと聞いた。 ・一人の差で2クラスに増えることもあるが、その場合は先生も倍になるのか。クラス担任が休んだり出張する場合に授業に携わる先生もいる。先生の配置などうまくされているのか気になる。
委員	・私は団塊の世代の後ろの世代になるが、小学校も中学校も10クラスあり、高田校区で1,000人くらいいた。現状を聞くと1クラス10人から15人で、それが信じられない。 ・先ほどの将来見込みで、6年、7年くらいは現状でいけそうだが、8年経つと一気に減る。
副委員長	・そこは私も注目していて、令和17年が大きな節目になっているように思われる。 ・このあり方検討委員会では、統廃合も含め、概ね10年後を見据えて検討していくということで良いか。そういうスパンで考えて良いか。
事務局	・事務局でも子どもたちの教育環境が大きく変わるはその時期と考えている。今は2クラスを維持できているが、10年後には半数以上の学校で1クラスになる学年が生じるため、現在の環境が維持できなくなる目安と考えている。 ・子どもたちの教育環境を維持し、新たな環境をつくるために、現在の8学校を活用しながら進めていくとすれば、どういった数がよいのか。

事 務 局	・一方で、市の公共施設として、学校も築 40 年ないし 50 年であり、建物の長寿命化など、学校施設の維持管理についても検討していく必要がある。 ・10 年後にすべて一度にということではなく、校区によって取組時期を早めることが可能であれば、それも含めて検討していく必要があると考えている。
副 委 員 長	・スケジュールを見ると、本委員会の前に庁内検討委員会が開かれるようだが、行政側で検討した意見をこちらにもらうかたちになるのか。それとも、行政側での検討内容は気にせず、こちらはこちらで検討していけばよいのか。そのあたりの兼ね合いはどうか。
事 務 局	・最終的には、大和高田市として基本方針・基本計画を決定していくことになるため、教育環境のあり方について外部委員の皆さま方に検討いただいた内容やご意見は、都度、庁内検討委員会に報告する。 ・また、逆に、庁内検討委員会での意見を本委員会でお示ししたうえで検討を進めていただくこともあると思う。
副 委 員 長	・お互いに交流しながら良い意味で連携していくと理解した。
委 員	・確認になるが、本委員会は、子どもの教育環境を最優先に考えるという視点で取り組んでいけばよいのか。 ・資料 5 の 8 ページ、9 ページでは、地域とともに存在する施設との記載があり、地域の方もこれからは学校の中に入ってきてもらえるようにするといったイメージで書かれている。 ・先ほどもあったが、目の前の学校がなくなるとなれば、地域の方に意見を出してもらうことも必要と思う。将来も見据えるのであれば、地域の拠点としての使い方など、意見を聞いた方がよい。
事 務 局	・まずは学校として教育環境のあり方を検討してもらうことになるが、学校だけではなく、地域コミュニティの中で子どもたちは学んでいくので、学校のあり方として地域とつなぐ役割が求められる。 ・今後は地域の拠点として学校が存続していく必要がある。物理的な建物・施設の集約だけではなく、コミュニティのつながりの場として地域と協働した学校が必要になってくる。 ・市としては、予算的・財政的な事情もあるので、不要な公共施設は減らし、必要なものを活用という発想になってくるが、その中で子どもたちの環境が脅かされてはいけけないので、より子どもたちの教育につながるような方向性で、教育委員会としては提示していく必要があると考えている。
委 員	・教育委員会に考えてもらうことではないかもしれないが、学校がなくなったらどこに避難すればよいのか。避難の受け皿はどこになるのか。学校があれば住民も安心する。 ・また、使わない建物が建ち続けるのは防災上よくない。

委 員	・子どもは小学2年生で、現在2クラスしかない。私が小学校のときは4クラスあった。片塩中学校は1学年で9クラスあったが、今は3クラスしかない。 ・体育大会でも規模が違って、クラスが多いとおもしろい。昔は1日開催していたが、今はお昼で終わってしまっていて保護者も楽しめる部分が少なくなっていると思う。 ・仕方がないのかもしれないが、できる限り子どもの数を増やしていくという方向で進めないと、どんどん小さくなっていくばかりである。
委 員	・総代として、以前は卒業式や入学式に教育委員会から招待されて出席していたが、コロナ以降、出席はご遠慮願いたいとなった。出席して励ましたい気持ちはあるが、どの校区の総代も欠席している。 ・今はほとんどマスクをしていない。講堂に大人数の卒業生、在校生が集まっても大丈夫だと思うので、ぜひとも3月の卒業式、4月の入学式には来賓の復活をお願いしたい。
委 員	・今の子どもは集中力がなく、1時間がもたない。一人がトイレに行くと半分くらいトイレに行って、校長先生があいさつしているのに半分はいないということもある。 ・式の中で来賓という形で紹介する時間を組むのが難しいのが現状。
委 員	・来賓の紹介は数分である。
委 員	・その数分が子どもにとってはきつい。
事 務 局	・コロナ禍もありお断りしていた経緯があり、従来の形に戻すかどうかは考えなければいけないが、基本的には地域に開く学校という方向だと理解している。 ・人口を増やさなければ解決しないという意見はまさにそのとおりで、まち・ひと・しごと創生会議で、専門家や公募委員に入ってもらい、人口増や市の活性化について議論を重ねている。そこでの意見はまた提供し、皆さんからも意見を頂戴したい。
委 員 長	・子どもの視点だけでなく地域拠点、あるいは学校施設の老朽化に伴う財政的なことも大きな材料になる。 ・いろんな視点で意見を出していただいた。事務局にはそれを踏まえてアンケート修正や次回資料の検討をしてもらえると大変ありがたい。 ・本日の議事についてはこれで終了とし、第一回はここまでの審議とさせていただきます。
事 務 局	・本日は、皆さまのご協力を得て、第1回あり方検討委員会を無事終了することができた。 ・今後の開催予定を資料7のスケジュールに記載しており、第2回は来年2月に開催する予定である。日時が決まり次第ご連絡する。 ・今回の配布資料はお持ち帰りいただき、次回のあり方検討委員会にお持ちいただくようお願いする。